
夏休み

土師海月

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏休み

【Nコード】

N5733H

【作者名】

土師海月

【あらすじ】

煙草と少年、風鈴と壊れかけの扇風機

崩れたソフトクリームみたいな雲が、溶け出さず空に有るのが不思議でならない

ベランダと言うにはお粗末な、床から一段高いだけの窓辺から外に向かつて煙草の灰を散らす

眼下の細い通学路を笑いさんざめき通り過ぎて行く子供達、夏休みなのだろうプールバッグを揺らして進む彼らは、夏の計画や宿題のすすみ具合なんて聞きあたりしながら、じきに見えなくなる。

後には窓枠から下がって涼しい音をたてる金魚の描かれた青い風鈴と、時折苦しげなうめき声をあげる年代物の扇風機、落下防止の柵に頬杖ついてソフトパックに残った最後の一本を眺める自分だけが残る

結局火をつけ、吸い殻だらけの灰皿に灰を落とすころ、白い雲を押しつけて、分厚い黒い雲がやってきた。腹に響く重低音が直に土砂降りの雨がやってくることを伝えるが、窓辺から動こうとはせずに白い筒をグレーの灰と白く濁った煙に変えていく

カーキのランニングから伸びた腕に、大粒の雨が一つ、間を置かずに二つ、子供達はプールに向かったのだろうか、雨が降ろうが降るまいが濡れるのだから関係ないのかもしれないが、雷が鳴り響いているのだから折角出向いた物が無駄になることも充分にあり得る雨が賑やかにアスファルトを叩き、硬い音を響かせる段になって漸く部屋へ引っこもつとした時、目の端に白が引っこかった

制服を着て、途方に暮れた顔をして、大切そうに黒いバッグを胸に抱える少年は、これ位の時間にいつも通る一方的な顔見知り

普段は柔らかそうに見える髪も今は濡れてしまっただけで見る影もない、雨宿りしようとしてだろう自分が座る窓辺の下に向かう頭を見て、声をかけたのはほんの衝動

「風邪ひくよ、あがつておいで」

驚いてこちらを見上げた顔で、まだ幼さを残す可愛らしい少年だったのだと初めて知った、何事か口の中で呟く様子に

シラナイ人に声をかけられたら…だなんて言われてるだろうと思いついたが、今更どうしようもない

少年は結局階段を上がる方向に消えていったから、窓をしめ、冷房をつけてタオル片手に出迎えるとする。玄関口で顔を突き合わせた少年は遠慮がちな子猫みたいで、たまにはこんな気まぐれも悪くないと思えるくらい、やっぱり可愛らしい子だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5733h/>

夏休み

2010年10月10日15時20分発行